

平和な社会を創るために

先週の火曜日(12月10日)に、スウェーデンのオスロでノーベル平和賞の授与式が行われました。12月10日は、ノーベルが亡くなった日です。日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に贈られたことはみなさんも知っていると思います。

ノーベル賞は、「人類に最大の貢献をもたらした人々」に贈られる賞です。ノルウェーのノーベル賞委員会は今回の日本被団協が授賞した理由として、「核兵器のない世界を実現するための努力と、核兵器が二度と使われてはならないことを、目撃証言を通じて示してきたこと」としています。

代表委員の田中照巳(てるみ)さんは、受賞演説の中で、「人類が核兵器で自滅することがないように。核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と述べられました。

今年の5月19日に3年生は、修学旅行で広島の地を訪れ、広島平和記念資料館や原爆ドームを見学しました。7月26日には、生徒会役員が、田辺の模擬原爆追悼式に参加しました。

このような体験活動を通して、戦争や核兵器のない平和な世界を築いていくことのかけがえのなさを実感し、学んだのではないでしょうか。

『世界を平和にするためのささやかな提案(2015年 河出書房新社)』という本があります。本校の図書館にも置いてありますので、興味のある人は手にとって読んでみてください。この本では、タレントや声優、医師、漫画家、イラストレーターなど、様々な場面で活躍しておられる22名の著者が、「今、世界を平和にするために何ができるのか」について、それぞれ「提案」をしています。

精神科医の香山リカさんは、「平和な世界」を目指すための姿勢として、「いつも種類の違う意見を探しながら自分で決める」ことをあげておられます。正しいと思われる意見や異なる意見に対しても、自分で考えてみる態度の大切さを述べておられます。

「平和な世界」をどう築いていくかということは、とても大きな課題ですが、私たちができる、「小さくても大切な行動」はあるのかもしれません。